

令和6年度 自己評価・学校関係評価報告書

令和 7年 3月14日
学校法人 頌徳学園 三和幼稚園

1.本園の教育目標

- ・生きる力(自ら判断し実行する力)などの基礎を育み 豊かな心を培う
元気で明るくのびのびした子ども
情操豊かな子ども
友達と遊べる子 を柱として、よく見てよく聞いてよく考える子の育成

2.本年度の重点目標

- ・子どもの自己肯定感を育てる保育の重要性

3.評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	評価	取り組み状況
1 保育の計画性	B	昨年度よりそれぞれの保育をみてもらい、検討する機会が少なかった。 指導計画に基づいて主体的肯定感を育み関りたくなるような環境を構成していく必要がある。
2 保育への在り方・幼児への対応	B	子どもとの関りの中で、観察しながら接しているつもりだが、毎日の生活の中で見失ってしまうこともあった。 他の職員から悩みをきいてもらったりすることで、解決の糸が見えたこともあったが、もう少し研修を含め、職員共有の必要がある
3 園内研修	C	公開保育を行ったが、見合っただけであって、掘り下げられなかった。研修時間も1学期は共通理解を深める時間を作れたが後半は日々の仕事に追われてしまった。
4 子ども達の自己肯定感の育み	B	保育の中で、どんなことが、子どもの自己肯定感につながっているかをそれぞれ発表しあった。些細な関りでも子どもに対して幸福感が得られた一方で、些細なことでも傷つけてしまったことがあったのではと反省する

評価(A...十分に成果があった B...成果があった C...少し成果があった D...成果があった)

4.総合的な評価結果

評価	理由
B	4つの評価項目に重点的に取り組んだ結果、職員全体は入れ替えがない分、効率化できたはずだが、それ故にマンネリ化が見られた。わかっているだろうと、確認を怠ってしまっていたので、再度、職員共有、教育理念や方針を伝えていく必要があるだろう。 自信を持たせるのは、言葉だけではないということ。いつも温かな環境の中見守られているということが大事だと気づかされた。 子どもとの関りの面でどのように関わっていいか、一人で悩むなど、わからなくなることも多いので、気楽に話せる場を作り、職員同士の関係を深めながら研究も深めていきたい。

5.今後取り組む課題

	課題	
職員資質向上	園内研修における効果的な研修	教育要領を読みあい、日常の子どもの姿はどの項目なのかを知り、一人一人に合った援助を心掛け、教職員の視野を広げ、学びの場を作っていく挨拶が徹底されていない。相手に伝わらない挨拶など自分なりの対応をしている。再度確認と思いが伝わる園作りを心掛けたい。
	接遇研修	
	安全管理	緊急事態に備えて、マニュアル等を共通理解し自分の役割を知り実際行動に出られるように身に着くよう意識して行う。また危険察知能力を高めたい。
	子ども達の自己肯定感の育み	自分は自分のままでいいと思えるよう言葉がけ、環境を大事に研修したい。親にも自己肯定感を大事に子育てができるよう発信もしく必要ある。

学校関係者評価

○保育の計画性

子どもの意思を尊重しながら保育をしている。その姿や活動が保護者側にもわかれば尚、良いと思う。

○保育の在り方

子どもたちに取り組み成果が表れてくると保護者満足に結びついてくる。長期的な取り組みが必要だと思う。

○園内研修

時間を作るのは大変だと思うが、作ろうとおもわなければ作れないと思うので、子ども達のために続けてほしい。

○自己肯定感の育み

子供たち同士で考えたり、作り出したりしてくれていたと思う。日頃の生活の中で温かな姿があれば保護者に発信してくれるだけでも、子どもとの向き合い方が変わってくると思う。

令和 7年 3月 13 日

設置者:学校法人 頌徳学園

理事長: 金原 順一

